ミニシンポジウム記録

水産資源の持続的利用と認証制度
—東京オリンピックで日本の水産物を
提供できるのか?—海部健三^{1*} (中央大法),
小川 健² (専修大経)

Sustainability of fishery resource and ecolabel

KENZO KAIFU^{1*} AND TAKESHI OGAWA²¹Faculty of law, Chuo University, Hachioji, Tokyo 192-0393, ²School of Economics, Senshu University, Kawasaki, Kanagawa 214-8580, Japan

はじめに

水産資源の減少が世界的な問題となっているなか、漁業・養殖業に対する認証制度を通して、資源の持続的利用を推進する国際的な動きが活発になっている。2016年開催予定のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、大会開催期間中に提供する全ての水産物を、国際的な認証制度によって認められた製品に限定した。しかしながら、日本における水産物認証制度の認知度は低く、現在のところ国際的な認証を受けた水産業は2件しか存在しない。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでリオと同様の基準が当てはめられた場合、ほとんどの日本の水産物の提供は不可能になる。本シンポジウムでは、水産物認証制度の現状と課題を学ぶことを通じて、参加者とともに日本の水産業の将来について考える。

〈プログラム〉

日時：平成28年3月30日(水) 13:00-17:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス 白鷹館1階講義室

企画責任者：海部健三(中央大法)・小川 健(専修大経)

〈第1部〉

13:00-13:05 開会の挨拶および趣旨説明

海部健三(中央大法)

座長 小川 健(専修大経)

13:05-13:35 1. 認証制度が必要とする基礎的要件
—国際的に認知されるエコラベルの共通点—

大元鈴子(地球研)

13:35-14:05 2. 海洋管理協議会(MSC)と日本の
漁業

鈴木 允(MSC日本事務所)

14:05-14:35 3. 養殖管理協議会(ASC)と日本の
養殖業

前川 聡(WWFジャパン)

14:35-15:05 4. 日本の水産業と認証制度の現状

勝川俊雄(東京海洋大)

15:05-15:20 休憩

〈第2部〉

15:20-16:55 討論

座長 海部健三(中央大法)

15:20-16:00: パネル討論

秋山貴彦(パルシステム生活協同組合連合会)

岩尾敦志(京都府農林水産技術センター海洋セ
ンター)

村上春二(Ocean Outcomes)

山本泰幸(イオントップバリュ株式会社)

若松宏樹(中央水産研究所)

16:00-16:55: 総合討論

16:55-17:00 閉会の挨拶

水澤寛太(北里大海洋)